



大安寺護寺会

編集・発行 大安寺護寺会広報部
恵庭市大町4丁目2番25号 大安寺内
TEL (0123) 34-1093
FAX (0123) 33-8005
ホームページURL <http://www.daianji.net>



現在の新ご本尊様（6頁参照）

新年のご挨拶



大安寺護寺会 会長
大安寺住職

押見 俊哉

西暦二〇一六年（邦暦平成二十八年・仏紀二五八二年）を迎え、謹んで大安寺檀信徒の皆様のご清福と万福多幸をご祈念申し上げます。

檀信徒の皆様には、日頃より大安寺の護寺のために、ご理解とご協力をいただいておりますことに、改めてお礼を申し上げます。

毎年、新年を迎えると、どなたも新しいカレンダーをめくり、今年一年に思いを馳せることと思えます。今年一年がどのような年になるのか、そしてどのような年にしていきたいか、その思いはそれぞれかと思えます。

「発心」という言葉があります。お釈迦さまが示された、あるべき人生の道を歩む、その最初の一步を踏み出すことが「心を発す」ということです。

年の初め、「今年の発心」を發して、それを大切にしていただきたいと思えます。

さて、大安寺においては大きな法要が営まれます。

九月三日（土）の両祖報恩法要に併せて、大安寺を開かれた大休悟由禅師さま（永平寺第六十四世）百回忌と先代住職の十三回忌法要を営みます。

またこの節目にあたり、新時代に向けて私共大安寺檀信徒の心の拠りどころとなる、新しいご本尊（釈迦三尊像）をお迎えして、大本山永平寺副貫首さまを導師に開眼法要を修行する予定であります。

除幕されて開眼された新本尊さまは、これからの私共の行路を明るく照らしてくださいとう。

今年のこの法要を営むために、数年前から準備をしてまいりました。ご案内は後日改めて差し上げますが、恒例の法要は勿論のこと、もう二度とないこの重要な法要に必ずご参詣をいただきますようにご案内をお願いを申し上げます。

新年あけまして

おめでとろ

ございます

理事長	遠藤 昭雄
副理事長	鏡 貢
総務部長	中 村 忠司
会計部長	林 則 栄
運営部長	小 林 和 雄
広報部長	近 藤 春 夫

大安寺理事・地区幹事一同

平成二十八年 元旦



作・羽田野 収

平成二十七年下半期の行事報告

盂蘭盆会

八月十六日(日) 午前十一時修行

大安寺本堂にて、ご先祖や亡き人の御霊を迎え、施食会という供養を行ないました。

日曜日ということもあつてか、二百五十名以上の檀家さんが参加されました。また、納骨堂へもたくさんの方が、亡き人やご先祖さまに手を合わせ、祈る姿が見られました。

両祖報恩会・万灯供養

九月七日(月) 午前十時修行

午前十時から道元禅師・瑩山禅師の二祖さまへの報恩講を行ないました。続いて、本堂内をロウソクの光(万灯)のみで、供養する人の名前を書いたお札を、住職さんが読み上げ、中央の万灯の中に入れて供養しました。

この間、参拝者が代わる代わる新しいロウソクに火を灯していきます。



本堂内が、ロウソクの光でゆらぎ、幽玄な雰囲気です。先祖霊を供養していました。

秋季彼岸会・水子供養

九月二十三日(水) 午後一時修行

本堂で秋季彼岸会・水子供養がありました。仏教の教えを实践する前後一週間は、先祖供養を行う大切な仏教行事です。夕日が沈む西方を仏教では極楽があるとされます。その極楽におられるご先祖さまのより良い成仏を願つての行事なのです。

釈尊成道会

十二月八日(火) 午前十一時修行

十二月八日は、お釈迦さまが悟りをお開きになられた日です。

お釈迦さまが「御仏」になられたこの日が仏教の起源といえます。お釈迦さまの苦行を忍び、一週間坐禅を続けるという厳しい行をおこなっています。



檀信徒寄稿文

ラオスの娘、ノーイの結婚式に出席して

原 田 實

何年前ラオスの娘、ノーイとリンの二人が日本に来た時に、結婚する時は必ず出席するからと約束した。そしてその日が来た。平成二十六年十月二十八日がノーイ二三歳の結婚の日。私は身体に不安はあるが、まだ認知症でないのが心強い。前日病院で薬をもらい、二十三日千歳空港から韓国を経由して、タイのチェンマイに三泊して二十六日、十五時半チェンマイから、ルアンパバーン行きの飛行機に乗る。ラオス国営の小さなプロペラ機は離陸すると、ぐんぐん高度を上げて大きく旋回し、機内の小さな窓からの眼下は深い緑のパノラマがゆっくりと遠ざかって行く。しばらくして機体は、ラオスの古都ルアンパバーンの町へと傾き、山の斜面に手が届くほどに近づいてきた。夢中になって、その流れ去る緑の山を見ていると、山と山の谷間に一本のコーヒー色をした大きなメコン川に寄り添うように飛んで、こじんまりとした真新しい空港に着いた。

町はラオス仏教の中心地で十米も歩けば次の寺院に行きあたるといふ町全体が寺院で埋め尽くされている。昔ながらの独特な雰囲気がある町でそこかしこに漂い、朝早くから青空市場が開かれ素朴な風景に出会える。メコン川やカーン川沿いの大木の下では、夕方になると裸電球の下、オープンテラスの屋台で地元の人や旅行者も談笑しながら夕食を

楽しんでいふ。白亜のコロニアルの建物の外壁に大きな椰子の陰を映し、人々は笑顔を交わしながら夜更けまで飲み食いが続く。

雨季の終わり、朝まだ暗い四時、一斉に各寺院の大太鼓が街中に響き渡り、僧侶のしめやかな読経からお坊さんの一日が始まる。その頃、僧侶に寄進するもち米を蒸す蒸気と薪の黒い煙がもくもくと路地の裏木戸から立ち登り、地元の人たちは昔ながら続く朝の行事を静かに過ごしている。六時、大太鼓と共に各寺院から黄色い衣を着た僧侶が通りに出てきて托鉢が始まった。地元の人々は皆、供物を両手いっぱい抱えて通り沿いに出て僧侶の現れるのを待っている。荘厳な朝の托鉢風景である。しばらくするとオレンジ色の袈裟をまとった僧侶が一行になって、一キロもあろうか次から次に現れる。女の人は立ち膝で、男は立って目の前を通る僧侶一人ひとりに、朝蒸したもち米や供物を僧侶の肩から下げた鉢に入れて寄進する。朝の薄闇に包まれた町がにわかにオレンジ色に変わる。僧侶たちは皆、無言で、ただひたひたと裸足で大地を踏む足音だけを残して通り過ぎていく。

昔ながら続く朝の厳かな儀式は仏教の強い信仰心の表れであり、仏教と暮らしが一体となった悟りの境地である。十月二十八日、今日はルアンパバーンに来るといふもお世話になっている娘さんノーイ二三歳の結婚の日。朝早く僧侶の



托鉢風景を写真に収め、メコン川沿いを朝の散歩をする。対岸は深い森に抱かれ、村からは鶏の鳴き声が響き、焚き火の煙が幾筋も登り、メコン川では小舟を操って網を投げ魚を獲っていた。

結婚式は花嫁の自宅で十時からバーシーが始まる。バーシーとは、結婚・歓迎・誕生・旅立ち・家の新築などに行われるラオスならではの儀礼行事。まず部屋の中央に丸いテーブルを置き、竹や花で作った祭壇が置かれ、花やバナナの葉やロウソクで作った飾りに、竹ひごに巻いた木綿糸、果物や卵、ゆでた鶏肉などを添える。

その後、親戚や友人、近所の人たちが参加して祈祷師による祝経があげられる。そして中央にあるお膳から木綿糸を取って、幸福や健康を祈る言葉を唱えながら新郎、新婦の手首に白い木綿糸を巻きつける。その糸は三日間外してはいけないという。タイのチェンマイから来たジップも参加して、十時から始まったバーシーが終わると、今度は酒盛りの昼食が夕方まで続き、七時からは野外の広場に丸いテーブルに椅子を並べた会場に移して披露宴が始まった。

テンポの早い音楽の流れる会場に千二百人も人が集まり、テーブルに載せてある料理やビールを勝手に飲み食いが始まる。誰の挨拶もなく、しばらくすると会場の前に出て踊りだし、その輪も次第に多くなつて大賑わい。その踊りも夜明けまで続くという。踊って



飲み食いして腹一杯になると客は勝手に帰っていく。信仰心の強いラオスの人たちの、のんびりとして優しい国民性からこの国を訪れる度に、ゆっくりとした空気に心が癒される。日本人がいつしか忘れてしまった何かに出会って懐かしささえも感じられる。

山と川に抱かれた仏教信仰の町ルアンパバーンから、車で四〇五十分も森に入ると、山の谷間に、木の葉の屋根に竹で編んだ壁の平屋が五〇六戸が立ち並ぶ少数民族の集落があり、鶏や豚は庭で勝手に遊び回っている。子供たちは真っ裸で土手の上から川に飛び込んで遊んでいる。そばで女性たちが洗濯をしながら沐浴をしていた。濡れた衣が身体にまとわりついてエロティック。気付かれずに写真を撮っている、バレてしまい「キャー撮っちゃダメ」と笑いながら水をかけてきた。女性たちは川で衣類を足で踏んだり、石に叩きつけて洗濯をしていた。

毎日夕方になると悠々と流れるメコン川沿いの大樹の川下にはみ出したテラスで、ラオスの子供たちやその家族、友人たちとメコンに沈む夕陽を見ながら楽しい夕食の団欒で時間も忘れ、夜更けまで続いたのが忘れられない。

日本人がいつしか忘れてしまった何かに出会って、アジアの辺境に辿り着く道は厳しいかも知れないが、そこで飲む水は意外なほど甘い。

照り映えた信仰の町並みにも夕陽に西の空が赤味を増していく。多くの楽しい思い出を残して仏教信仰の町ラオス、ルアンパバーンに別れを告げ、多勢の子供たちや家族に見送られ帰国した。

新ご本尊様検品

十二月二日住職の念願でありました新ご本尊様の検品に住職夫妻他十五名の参加者で愛知県長久手市にある江場仏像彫刻所に検品に行ってきました。江場琳観仏師が殆どを作成されているとのことで、現在は釈迦如来坐像と迦葉尊者像の彫刻が終わり、阿難尊者像の彫刻に入るとのことです。

表紙に写っているのは江場琳観仏師の奥様が釈迦如来坐像の截金の作業をしている様子です。この技法は金箔を数枚焼き合わせ細く線状に切ったものを筆先で運びながら種々の文様を施す技法で、古来より仏像、仏画における荘嚴の最高峰として伝承されている最終仕上げとのこと。終了している一部を拝見しましたが、仏像全体の截金が完成するとどのような美しいお姿になるのか楽しみです。



江場琳観仏師による新ご本尊様制作状況の説明



作業場でのご本尊様の説明が終了後、彫刻所内にある展示室にて江場さん親子が作成した各種の仏像を拝見しました。繊細な彫刻が施された美しい仏像の数々に一同感銘を受けました。江場琳観仏師より仏像についての説明があり、その中で今回ご本尊様の作成をされている琳観仏師の才能は自分以上との話もされていました。



京都・奈良観光

旅行初日、十二月二日の天候は暖かく、翌三日は朝方雨に降られ、最終日の四日は寒気が入り北風も強く一日中寒い日でありました。三日間、一日一万歩以上の観光となりましたが、途中で一人も欠けることなく、元気に全日程を終えることができました。住職夫妻には細部にわたる気配りをいただきありがとうございます。



東山山頂からの京都タワー131m
(昭和39年京都市人口131万に因んで)



見ごたえのある庭園と美しい紅葉を楽しんだ詩仙堂



東大寺大仏殿



あいにくの曇り空の下でも輝く金閣寺

くお寺からの お知らせく

新本尊「奉賛金」のお願い

新ご本尊をお迎えいたします。
九月の両祖報恩法要の日程で開眼
法要を修行する予定です。

新ご本尊は檀信徒の皆様からの
奉賛金によって奉納されます。

ご奉賛者のご芳名は、本尊さま
の胎内に納められ、後世に伝えら
れます。勸募の最終期限は今年三
月末です。

ご入金はお寺にある専用の振込
用紙にてお願い申し上げます。
ご協力いただける方はお寺まで
ご連絡ください。

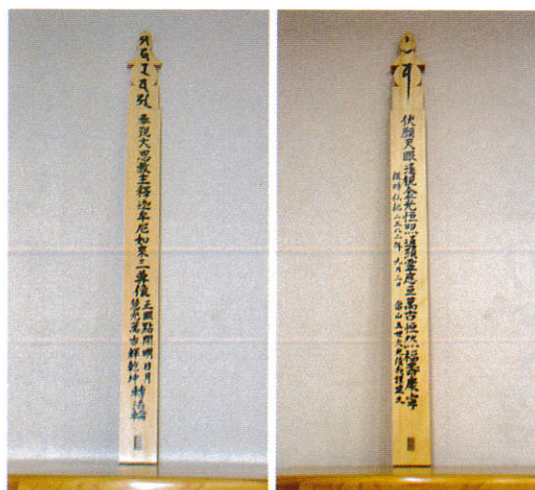


護寺会総会

平成二十八年度大安寺護寺会総
会が、理事及び地区幹事により一
月三十一日に開催されます。
会員の皆様には後日、総会の結
果についてご報告いたします。

本尊胎内に木札

新ご本尊の胎内に入れられる木
札です。住職によって謹書されま
した。



裏面

正面

ハーモニカ演奏会

二月十五日(月) 午前十一時か
らの釈尊涅槃会法要の終了後に、
「札幌ハーモニカアンサンブル」
の皆様による演奏会を行います。
北日本唯一のハーモニカ・オーケ
ストラ・バンドであり、約二十名
のメンバーによって演奏されます。
法要から多数のご参加をお待ち
しております。

雑巾・使用済み葉書

婦人会では各家からの雑巾と使
用済み葉書のご提供をお願いして
おります。

雑巾は本山永平寺に寄付し、雲水
さんの毎日の清掃に使っていただ
きます。

葉書はシャントイー国際ボラン
ティア会に寄付し、東南アジアの

禅を聞く会

子供たちの図書購入に充てられます。ご協力をお願いいたします。

婦人会会長 芦野瑞江

十一月十八日に婦人会主催の研修会『禅を聞く会』を安平町見龍寺の守屋敬道ご住職を講師に開催いたしました。

当日は会員以外の一般の方も含め、五十名程のご参加をいただきました。

今年で三回目となるこの研修会は、大安寺ご住職以外のお寺さんのお話を聞いて勉強をさせていた



行住坐臥…人の起居動作の根本である、行くこと・とどまること・座ること・寝ることの四つ。日常の振る舞い。

だく催しです。漢字を使つての日常の生活における「行住坐臥」のおうしゅうざが心がけについての心に残るお話をいただきました。

お話の後は楽しい手品を見せていただき、瞬く間に時間が過ぎていきました。

新役僧のご紹介



うちやま ゆうこう
内山 裕幸

二十八歳

この度、ありがたい仏縁をいただき、三月から大安寺さんにお世話になります内山裕幸です。

生まれは秋田県、大学まで神奈川県にて育ちました。北海道は初めてです。色々と至らない点もあるかと思いますが、精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

平成二十八年上半期の 大安寺行事予定

○一月一日(金) 午前0時

元朝大般若祈禱会

○二月三日(水) 午後六時

厄払い追儺会

○二月十五日(月) 午前十一時

釈尊涅槃会

○三月二十一日(月) 午前十一時

春季彼岸会・水子供養

○五月八日(日) 午前十一時

釈尊降誕会

次号護寺会だより十六号は

平成二十八年七月頃の

発刊の予定です。